

令和7年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

作成：R8.2.3

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	H18年12月開設。同センター内にサテライト特養、ショートステイ、訪問介護ステーション併設。こぶし園初の小規模として地域啓発等を行っています。住み慣れた地域でその人らしい生活が維持できるように柔軟なサービスを提供し、暮らしを支えていけるように取り組んでいます。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護美沢	管理者	木村伸彦		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・ 地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	1人	3人	14人	0人	25人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・ 結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<ul style="list-style-type: none"> ・担当を中心にご本人の気持ちを尊重し、できることに目を向けながら意向（「～したい」）を汲み取り、個別ケア計画を実施する。 ・更なる情報共有ツールとしてタブレットを有効活用する。（暮らしの情報シートに代わる書式をタブレット内に設けるなど） ・より良いケアが継続できるように接遇係を設け、接遇目標や気づきシートを活用して定期的に事業所評価を行い、接遇力の底上げを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度と比べると回数こそ少なかったが、ご本人の（「～したい」）を汲み取り、個別ケア計画を実施した。 ・タブレット内に新たに「私の情報シート」を設け、人となりを見直し、全職員で共有した。情報更新は滞っていた。 ・接遇面では、接遇係を設け、接遇目標、気づきシート、グループワークを通して接遇力の底上げに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「暮らしの情報シート」に代わる書式「私の情報シート」をタブレット内に設けるなどして、タブレットの有効活用を図っている。継続できるように情報更新に努め、共有してもらいたい。 ・接遇係を設け、接遇目標や気づきシートを活用して定期的に事業所評価を行い、接遇力の底上げを行う取り組みがなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有を図るための手段としてタブレット活用の他、小ミーティングを定着化させていく。 ・より良いケアが継続できるように接遇係を設け、3か月ごとの接遇目標の設定や毎月の気づきシートの提出にて定期的に事業所評価を行い、接遇意識の維持に努める。
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関前の季節の飾りつけや花壇の手入れ等ご利用者と一緒に行い、その様子を広報誌や地域共同活動などを通じて、ご家族や地域の方にも伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関前の飾りつけや野菜の収穫等ご利用者と一緒に行い、広報誌や地域共同活動などを通じてご家族や地域の方にも知っていただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを確認し、いつも職員の皆さんが笑顔でしっかりと挨拶されており、話しやすいとあった。非常に好感が持てる。また、玄関の季節感あるしつらえがとても綺麗で見入ってしまった。 ・ご利用者と職員の方々が談笑されており、アットホームで居 	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関前の季節の飾りつけや花壇の手入れ等ご利用者と一緒に行い、その様子を広報誌や地域共同活動などを通じて、ご家族や地域の方にも伝えていく。

			心地の良い環境作りがされている。	
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動（まちなね・地域団体の集まり）により多くの職員が（地域向けの学習会を企画するなど）参加し、積極的に関わる。そして、地域の方々と交流し、関係作りに努める。参加後は、議事録及び口頭での伝達にて活動内容の周知・共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなねの他、地域団体の集まりに出向き、地域向けの学習会を企画して交流を深めることができた。参加後の議事録及び口頭での伝達はやや不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との共同活動（クリーン作戦や防災訓練等）に積極的に参加いただいております、広く知られている事業所だと思っております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベント（まちなね・コミセンや町内団体での行事、クリーン作戦、防災訓練等）により多くの職員が積極的に関わられるように調整する。参加後は、議事録及びミーティングでの伝達にて活動内容の周知・共有を図る。 ・「まちなね」に参加された方々より取り上げてほしいテーマや内容のアンケートを実施し、次回に活かす。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源についての学習会を実施し、ご利用者がその地域で何処とどのように繋がっているのかを確認できるエコマップを作成する。まず始めの取り掛かりは、担当がケアマネから情報を得ながらベースを作り、徐々に肉付けしていく。そして、その方に見合った地域資源が有効活用できるように支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の学習会が実施できず、理解を深められなかったため、エコマップの作成まで繋がれなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を知るために町内を歩いて回り、地域マップを作成しているが、実際の気づきをマップに落とし込む作業は大変である。 ・エコマップはご利用者を支援するためにご利用者を中心として、その周辺にある社会資源（家族、兄弟姉妹、友人、近隣住民、医師、各種介護関連機関など）との相関関係をネットワークとして表現した地図のことで、生態地図とも言われている。まずは理解を深められるように学習会を開催し、是非とも完成させていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者がその地域で何処とどのように繋がっているのかを分かり易く確認出来るようなエコマップを各担当者がケアマネと共同で作成する。（4月、5月に地域資源及びエコマップの学習会開催 6月、7月にエコマップ作成）
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議により多くの職員が出席できるように調整（5月、7月、9月計3回）し、地域との関りを学ぶ。その後、議事録及び口頭の伝達にて内容の周知・共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた月ではあったが、これまで関りのなかった職員が出席できるように調整し、地域との関りを学べた。そして、議事録での内容の周知・共有を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの職員が会議に出席できるように調整するのは体制的にどこも難しいと思う。出席できなくても事前に職員から取り上げて欲しい内容を確認しておき、会議で協議してもらえれば 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月、5月、9月の運営推進会議に職員が参加し7月の防災訓練に運営推進会議の委員の方にセンターに来て頂く。11月、1月の外部評価時はサー

			良いのではないか。	ビス評価の担当職員が参加する。
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災活動に積極的に参加する。また、事業所の防災活動にも地域の方々に参加していただけるように働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練に職員が参加し防災意識が相互に高まった。地域の方がセンターの防災訓練に参加していただく事はできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設での防災訓練を見学させていただき、同じ小規模多機能として学ばせていただく所が多いと感じた。 ・大分県の大規模火災において、施設の送迎者が地域住民の避難に一役買ったとテレビで報道されていた。貴事業所においても、有事の際に頼りになる存在であり、様々な対応が柔軟にできそうなので安心している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災活動に積極的に参加する。また、事業所の防災活動(7月、9月の避難訓練)にも地域の方々に参加していただけるように案内を配布し、参加を働きかけていく。